

未来

郵政産業ユニオン
PIWU

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 4193
21年10月19日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

政権交代で 格差是正を

おはようございます。
プロ野球もいよいよ最終盤。セリーグはヤクルトに決まりそうだが、その本拠地の神宮球場は明治神宮外苑にあり、学生野球の聖地でもある。

先の戦争の終わりころ、文部省は学生野球を禁止する。東京六大学野球は一九四三(昭和十八)年十月十六日に最後の早慶戦を行う。応援団は敵味方なく応援し、最後は校歌ではなく「海ゆかば」をうたった、と歴史本にある。悲しい歴史である。

月十九日。今から七十年前の今日、日本軍の大西瀧次郎中将の発案で、神風特別攻撃隊が始まる。いわゆる特攻で、「自殺攻撃」であった。これ

で多くの命が失われたが、さらに戦争終盤に、この大西中将は「あと二百万人の特攻がいれば日本は勝てる」と日本の終戦に抵抗した。

大臣の要請で、労組の総同盟が自発的解散をし、日本主義を掲げる。

こうして翼賛体制ができる。と東条内閣は、一九四二(昭和十七)年に第二回総選挙を行う。翼賛選挙で翼賛体制派の候補以外は当選できないよう、様々な金と権

事実、その五日後の十月二十一日、この神宮外苑で第一回学徒出陣式が行われた。国は戦争末期の兵員不足から、十数万人の学生を徴兵する。雨の中の出陣式で文部大臣は「学園より決然と起って、決戦の第一線への路は、無上の荣誉であり、皇国男子として、本懐これにすぐるものはない」と訓示したが、若人の多くは戦地に命を散らした。

では世の中はどうだったのか。この戦争が始まる前の一九四一(昭和十六)年十月十一日、作家の幸田露伴は、「今の世の中は、極端な右翼がえびつて困ったことだ」と書き、「浮き世の馬鹿が大

臣になる」と句を詠み、時代の暗さを表している。

いよいよ日本も四年ぶりに衆議院の総選挙が一月三十一日にある。政治には興味がないという若い人も、いったん戦争が始まれば、戦争で命を失うかもしれない。

世界史では戦争が数えきれないほど起っているが、自分から「侵略する」という人はいない。戦争を始めることは簡単だ。「相手が攻めてくる」とくりかえせばいいのだと、ナチスの幹部が言っている。また政治的には、自国第一主義を唱えれば、国民は黙って従うと、過去も、

時代はその二年前に戻るが、一九四一(昭和十六)年十月十八日に東条内閣が成立する。東条はその第一声で、「支那事変を完遂し、大東亜共栄圏を確立し、世界平和に寄与する」と、平和主義を掲げるが、そのわずか二か月後の十二月八日に太平洋戦争(対米戦争)に突入している。

この十月に起きた過去の出来事を並べたが、その間の選挙はどうだったのか。

「海ゆかば」とは小泉元首相が歌い有名になったが、意味は「天皇のために死ぬ」という大伴家持の歌で、戦前、君が代に次ぐ準国歌とされた。現役の総理が天皇のために死ぬとうたっても許される。ま

今度の自民党の総裁選挙でも、安部元首相が推した高市早苗政調会長は「国を守る」と公言し、安部も「政治の役割は国を守る」とと国家主義を公言している。

政治の第一の役割が国を守ることは、極右の掲げる政治であり、国民の生きる権利を二の次におく政治である。戦前の幸田露伴風にいえば、「右翼がいばる政治は面白くない」である。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員の正社員化を。

めげず、均等待遇、なぐさう差別！ ユニオンは労働法裁判に勝利するぞ！